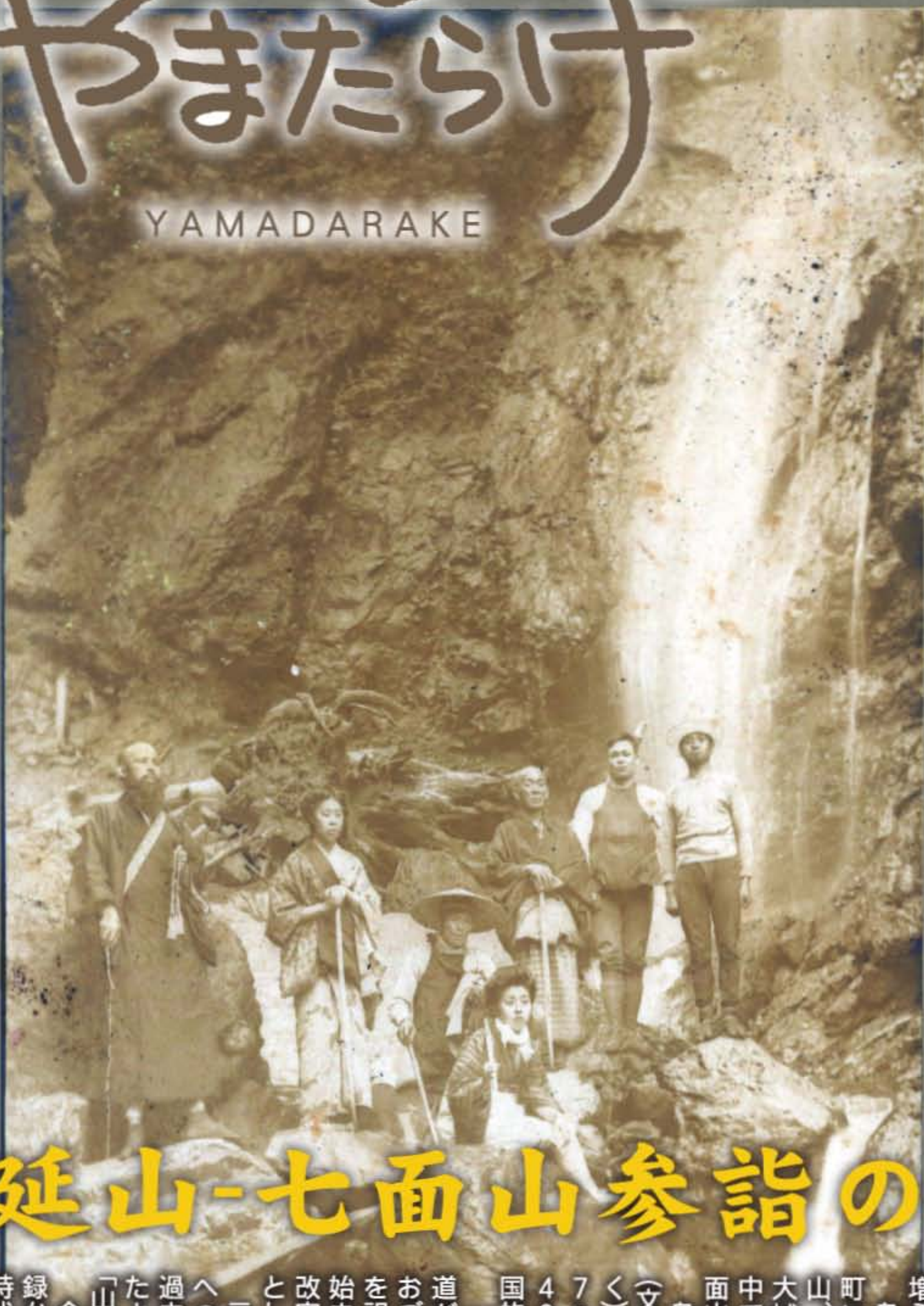
早川町応援団獲得マガジン

身延七面山参拝紀念

# やまだらけ

YAMADARAKE

JUNE
No. 59
2013



◀七面山表参道登山口近くの、白糸の滝前で撮影された写真。登山口に富士写真館が出張し、参詣客に記念写真を撮影・販売していたそうだ。写真は昭和初期のもの。

## 身延山-七面山参詣の歴史

長く続いた戦国時代が終わり、江戸時代になって全国的に治安が安定すると、庶民の間に観光行楽が生じるようになった。当時の庶民に人気だったのが寺社仏閣を詣でる旅であった。そうした世の流れに漏れず、身延山久遠寺を中心とした身延山エリアを旅する人も次第に増えてゆく。

身延山エリアは、現在の早川町と身延町に股がり、四山（身延山、鷹取山、七面山、天子山）四河（富士川、早川、波木井川、大城川又は身延川）の一帯を指す。この中で特に人々が訪れたのが、身延山と七面山である。

身延山久遠寺は鎌倉時代、1274（文永11）年6月17日に開闢（かいびゃく）されたと言われる日蓮宗の総本山で、700年を越える歴史を持つ。樹齢400年以上と言われる枝垂れ桜は全国的に著名である。

一方の七面山は、平安時代末期の修験道が盛んであった時代、役小角（えんのおづぬ）の流れを汲む行者が厳島弁財天を祀るようになったのが、霊山としての始まりだと言われている。後に日蓮宗に改宗し、法華経を守護する末法鎮守の山として位置づけられるようになった。

元来、身延山を旅するとは、この両山への参詣を意味した。両山を結ぶ道は、過去には「七面路」と呼ばれた事もあったようだが、今は「身延往還」「七面往還」「山越し」などと呼ばれることが多い。

今号では、身延往還を歩いた人々の記録から、人々の旅行事情が激変した江戸時代から近世に注目し、その参詣ルート、道中の見所や名物などを中心に、身延山七面山参詣の姿を紐解くとともに、身延往還の今後について考えてみたい。

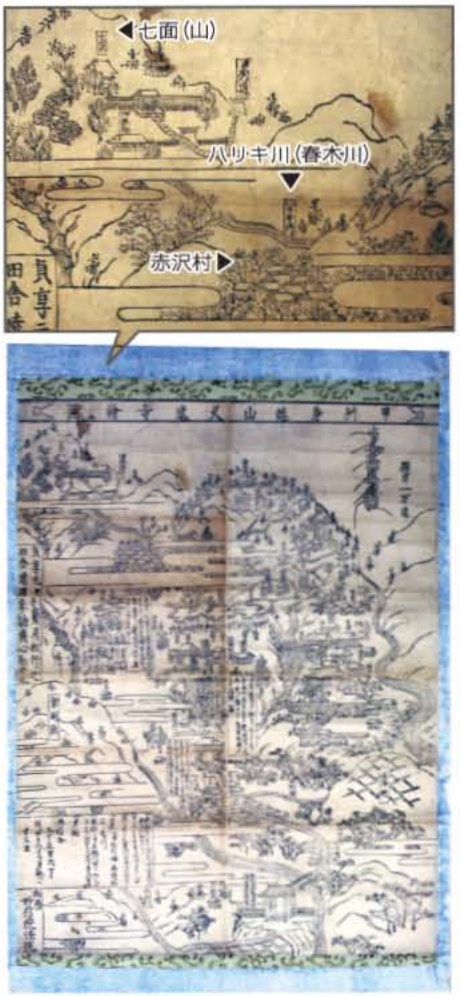
（加藤恒介）

## 富士川舟運開さくから東海道線の開通まで

1607年～1890年頃

1607（慶長11）年に角倉了以（すみのくらりょうい）が富士川舟運を開さくすると、身延山参詣に舟運が用いられるようになる。主な行程は、石和（現笛吹市）から船に乗り、鵜飼山遠妙寺－鰍沢－小室山妙法寺（現富士川町）－下山（現身延町）まで下り、身延山に入山する経路であった。身延山内の坊で一泊し、翌日に本堂から奥の院思親閣、赤沢村、七面山、七面山奥の院を経て、北参道から下山へ出るものと、来た道を戻って身延山に出るものとの二つの経路があった。江戸からの行程は約2週間を要している。

明治時代に入り、1889年に東海道線が開通すると、静岡方面からのアクセスが良くなった。静岡県の岩渕、興津から歩いて身延に参り、帰路は身延町大野、波木井から岩渕まで富士川舟運を利用したようだ。身延－岩渕の12里（約47km）を5時間で下ったというから、長旅で疲れた旅人にとって、富士川舟運は非常にありがたい存在だっただろう。また、身延の名産は湯葉、数珠、榧飴と記述されており、現在身延町を代表する名産品はこの頃には出揃っていたようだ。




▲甲州身延山久遠寺絵図（身延山大学図書館所蔵）
貞享元（1684）年に描かれた絵図。左上、雲の向こうに赤沢、春木川、七面山が描かれている。久遠寺より七面山まで四里との説明書きもある。

## 中央線の開通から富士身延鉄道開通直前まで

1903年～1918年頃

1903（明治36）年に中央線が開通した事で、東京－甲府間の移動が容易になった。甲府－鰍沢間に鉄道馬車が引かれると、石和－鰍沢間の富士川下りは徐々に衰退してゆく。東京からの全行程も1週間前後となった。

▼身延山 七面山 富士山 御嶽参詣案内
（身延山大学図書館所蔵）

昭和9（1932）年に発行された案内図。東海道線と中央線に挟まれた富士山と、身延山、七面山が並んで描かれている。東京から七面山までのルートも、駅名や地名、道中の見所などとともに、一枚の紙に上手にまとめられている。

なお、この案内図の発行元は熊王堂出版部だが、同様の案内図があちらこちらから発行されていたようだ（写真右）。

※身延エリアを構成する四山四河のうち、河は、富士川、早川、波木井川の3河に大城川という解釈と、身延川という解釈がある。

身延山から七面山へは、妙石坊-千本杉-追分感井坊-十万部寺-赤沢村-七面山というルートをたどり、その帰りに身延山奥の院を訪れることが多くなった。追分感井坊は往路復路の交錯点であり、特に多くの人々が訪れたようだ。

赤沢は昼食や宿泊に便利とされており、赤沢の蕎麦はこの頃からかなりの評判であったようだ。「赤澤名物の蕎麦は風味殊に佳し」（身延の栞 1906）、「赤澤の蕎麦と言へば近国に鳴っていゐるほどの名物」（木曽の神秘境 附·甲州身延山 1921）などと複数の書籍に記されており、道中に数多くある名物の中でも、特に評判が高かったようだ。

また、赤沢周辺の山は殆ど楓樹の密林で、10月末になると、わざわざ紅葉見物に訪れる人も多かったというから、その美しさは相当なものだったのだろう。

「中央線鉄道旅行案内」（1903）や「甲州見聞記」（1912）には、七面山は健脚を要する旨が記されている。しかし、敬慎院には雨の日でさえ百名以上が宿泊するなど、訪れる人は後を絶たなかった。七面山随身門からの眺めは「ご来光は言葉にも筆にも及ばず、ただ天上界に住む心地致し候」（4泊5日の旅名所周遊 1923）、「目の前の富岳の愁然として立っていること雄麗広大」（木曽の神秘境 附、甲州身延山 1921）とされており、千本杉と並び、身延山エリアでも随一の景勝を誇っていたことも、大きな要員であると思われる。

## 富士身延鉄道開通から早川入りのバス開通直前まで

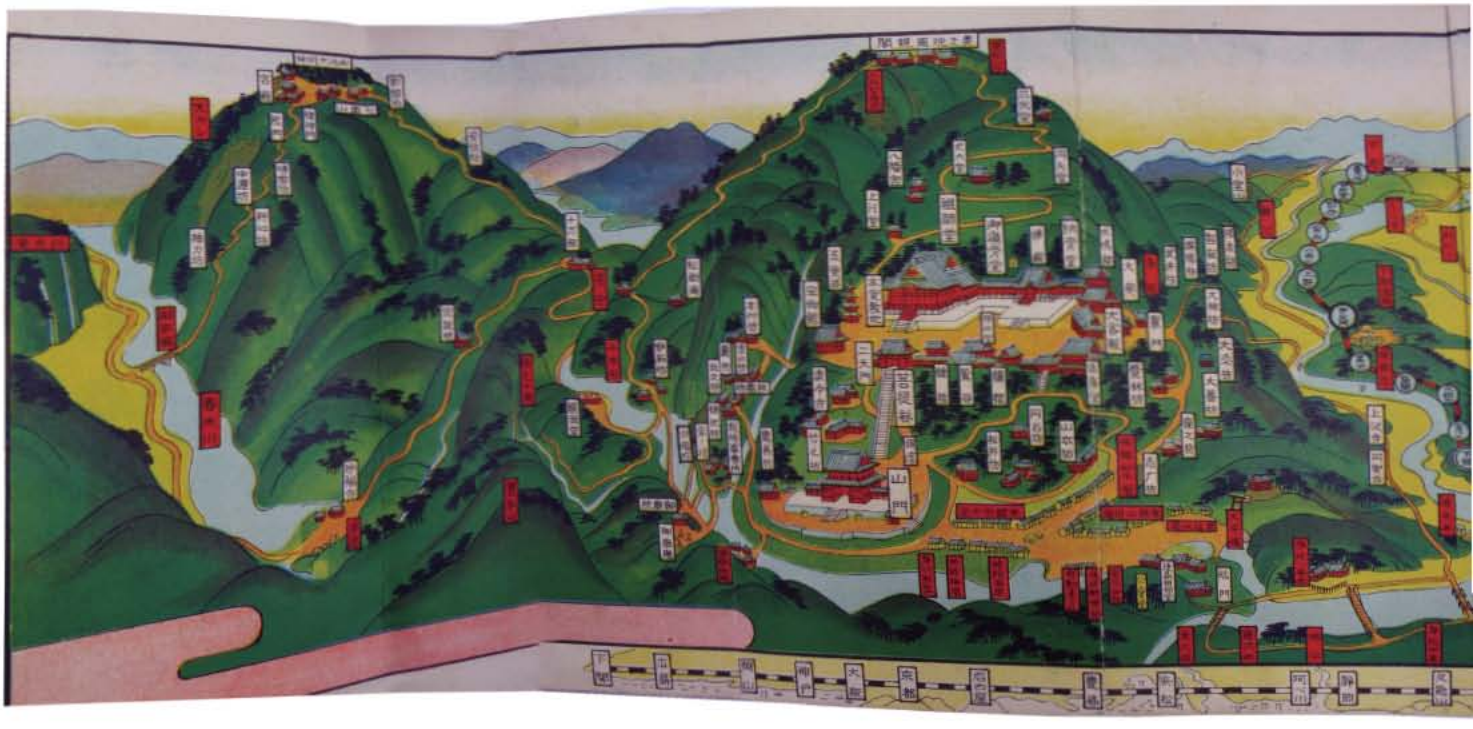
1919年〜1942年頃

中央線開通から11年経過し、1919年に富士身延鉄道線（現JR身延線）身延駅が開業される。この駅の開業により「東京からも名古屋からも、日帰り的に身延参詣が可能となった」（4泊5日の旅名所周遊 1923）。23時に東京駅を発てば、翌4時には富士駅に到着するのである。

身延駅-大野間の横流しのみ残されていた富士川舟運も、両岸を結ぶ身延橋が1923年に竣工するとその姿を消し、代わりに馬車、自動車の時代へと突入してく。自らの足と川の流れを頼りに、2週間かけて江戸-身延を往復していた時代が約百年前であることを考えると、旅行形態は驚異的なスピードで変化したことがわかる。

◀七面山表参道登山口の羽衣橋下の河原にて、日蓮上人の六五〇遠忌に当たる昭和6年に撮影された写真。表紙写真と同じく、白糸の滝付近に出張していた富士写真館が撮影した写真。（写真提供：龍華樹院清水坊）

◀身延山奥之院から赤沢宿への途中にある追分感井坊の休憩所。ここでは甘酒やよもぎ餅などが振る舞われた。奥へ進むと赤沢宿へたどり着く。（写真提供：龍華樹院清水坊）



また、身延町を訪れる旅行者層にも変化が見られる。かつての人々の記録では、参詣者は、多かれ少なかれ身延山エリアを信仰の地として捉えているように感じられた。しかし、この頃には単なる行楽地として訪れる人が増え、御草庵址が日蓮上人の縁である事を知らなかったり（身延に登りて１９２３）、殺生禁断である七面山で卵を所望して尼僧に一喝されたり（山行記１９２６）と、信仰と観光の間で不協和音が生じる事もあったようだ。

七面山への参詣ルートにも変化が見られる。角瀬から飯富までハイヤーが出るようになったことで、七面山北参道を経て雨畑方面や角瀬方面に下る場合が増えたのである。そうした人々は、まず身延山奥の院を訪れてから七面山を目指すようになった。

この時代も、道中の自然景観や、随身門からの秀麗な展望は多くの旅行者を惹き付けていた。身延山本堂千本杉までの道は紅葉が美しく「その眺めは錦のようである」（山行記１９２６）、赤沢−白糸の瀧までは「道中でも特に紅葉が美しい」（甲斐風土１９４２）と記されている。

七面山随身門からの眺めは「富士の峰は群峰を圧して雲表に屹立し、富士川は或は広く、或は狭く流れ、あたかも銀線を乱したごとくに爽快きわまりない」（三都中心名所の旅１９２５）、「今まで、このように美しい、息詰まるやうな崇厳さに付置された山の景をみたことがない」（甲斐風土１９４２）とまで記されている。

また、七面山敬慎院も現在と少し様子が異なり、執事が宿泊者の部屋を挨拶に回ったり、黄蓮（おうれん）の茶や焼き芋を振る舞うこともあったようだ。

角瀬に路線バスが開通する直前に身

## 身延往還を歩いた著名人
## 若山牧水と徳富蘇峰

この身延往還は著名人も歩いている。そのうち二人の記録を知る事ができた。

一人目は、自然と旅と酒をこよなく愛した歌人、若山牧水（1885-1928）。「牧水全集第5巻」（1930）に記されている。

牧水は、東海道線と富士身延鉄道を利用して身延山に入山。道中、野鳥の声に耳を澄ませることが多かった。また、千本杉のあまりにも見事な眺めに、その場に寝転んでしまうなど、牧水の記録からは、身延往還の静かな自然を感じる事が出来る。

赤沢宿では、七面山が最も良く眺められると考え「ゑびす屋」に部屋を取り、七面山では、奥の院に泊まり、夜は酒をつけてもらったようだ。

現在、牧水の歌碑が、赤沢集落内に３つ、七面山麓に１つある。

二人目は、ジャーナリストとして明治、大正、昭和を股にかけて活躍した徳富蘇峰（1863-1957）。「人間界と自然界」（1928年）にその記録を残している。

深い山々に囲まれた赤沢での午餐にて、新鮮な鮪の刺身が出て驚いたこと、名物の蕎麦を喫したこと、敬慎院の宿泊者が100人以上いて雑踏を極めたことが記されている。

同行者の一人に、身延山エリアの参詣に大きな影響を与えた富士身延鉄道の経営者、堀内良平がいたことも興味深い。

敬慎院を午前７時20分に発ち、赤沢に着いたのが午前９時過ぎであったというから、なかなかの健脚ぶりである。

大トチノキは今も健在。

七面山が初めて姿を現す場所。左写真の撮影場所は不明だが、今も変わることのない山々の眺望が、参詣客の疲れを癒したことは間違いない。（写真提供：龍華樹院清水坊）

【左】追分の感井坊から、身延山奥之院方向を見た写真。昔は鳥居があったようだ。右手に高座石方面への下り道がある。お堂には、帝釈天が祀られている。【右】バイクで感井坊を訪れる人もいたようだ。（写真提供：龍華樹院清水坊）

七面山からの御来光は美しく、今も変わらず参詣客を魅了する。

参詣客を魅了した千本杉（右）や紅葉（上）は、今も見事。千本杉は県の天然記念物に指定されている。

肝心坊では、今でもところてん、草餅などが楽しめ、往時を偲ぶことが出来る。

表参道の30丁付近にあったという幻の滝（写真提供：龍華樹院清水坊）

延往還を訪れた人の記録には「追分感井坊では七面山からの帰り客が50人ほど休んでいた」(甲斐風土1942)、「敬慎院ではこの日の泊まり客は100餘人、前日は300人いたという」(同上)と記されており、全盛期を迎えていた身延往還の盛況ぶりを感じることができる。

一方で、物見遊山的な観光を好む人も多くなり、そうした人々は七面山参詣を省略するようになっていった。

## 早川入りへのバス開通から現在、そしてこれから

角瀬にバスが入れるようになると、七面山へのアクセスは非常に容易になった。身延山を参拝した後、バスやハイヤーで七面山の麓まで行くことが可能になったのだ。世の中は益々便利になり、路線バスからマイカー移動へ、とにかく楽な観光が好まれるようになった。身延山から山を歩いて七面山に参詣する人も少なくなり、身延往還は観光の表舞台から姿を消した。

人々が身延往還を歩かなくなっておよそ半世紀が経った。かつて多くの人々で賑わいを見せたこの道は、今は静寂に包まれている。しかし、古木の生い茂る千本杉、道中の山々の鮮やかな紅葉、お万の方が身を清めたという白糸の瀧、そして七面山随身門から見える深い山々とご来光など、かつて人々に「険しい道のりを越えてでも見たい」と思わせたこの道の魅力や赤沢の町並みは、今も変わらずに残されている。

また、「そば処武蔵屋」の開業による赤沢名物の蕎麦の復活、28柱の石碑の設置、追分感井坊の整備の開始、ウォーキングやトレイルランニングでの利用など、身延往還に着目した取り組みが幾つも動き始めている。世界遺産に登録された熊野古道や四国お遍路のように、この道が再び陽の目を見る日も近いのではないだろうか。何せ、徳富蘇峰も「國立大公園として、世界の遊覧客を延(ひ)く可(べ)き勝地である」(人間界と自然界1928)と称するほどの地であるのだから。

**身延・七面山 信仰の道をゆく(予告)**

今回ご紹介した信仰の道を一緒に歩きませんか？
3回連続企画で、9月に身延山赤沢(日帰り)、10月に七面山(1泊2日)、11月に赤沢～身延山(日帰り)を開催予定です。詳細は次号でお知らせします！

問合せ先：日本上流文化圏研究所
☎ 0556 - 45 - 2160

謝辞：今回の取材では、身延山大学図書館司書 沼田晃佑氏、身延山久遠寺布教部宝物館学芸員 林是恭氏、龍華樹院清水坊 内野光智氏をはじめ、多くの方々にご協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。


## 早川旬の直送便

http://shop.joryuken.net/

直送便ウェブサイトでは、その他の商品も販売しております。会員割引も適用できますので、ぜひご活用下さい。

### 早川の大自然の恵みをいっぱいに浴びた「千須和主導会のブルーベリー」

遊休農地を解消しようと、地元住民が発起して植えたブルーベリー。1粒1粒手にとり、品質の良いものだけを出荷しています。

甘みと酸味のバランスが絶妙で、そのまま食べてもおいしいのですが、手作りジャムにして、パンに塗って食べたり、ヨーグルトに混ぜたりして食べるのもおすすめです。

眼精疲労を改善し、視力回復にも効果があると言われています。早川の大自然で育ったブルーベリーをどうぞお召し上がりください。

内容／100g単位で100gから1kgまで
※100g＝約100粒～140粒程度
価格／通常100gあたり350円＋送料(クール便)
会員100gあたり315円＋送料(クール便)
発送／7月上旬より注文順に発送
※気候の変化により多少前後することがあります。
締切／8月5日(月)まで

### 今年のお中元は早川のアイスで決まり！「早川ご当地アイスの詰め合わせ」

早川の資源を生かして作ったアイスクリーム。現在は、幻の果物ポポのアイスとシャーベット。硯島地区で作られている雨畑茶の粉たっぷりのアイス。手づくりの干し柿を使ったアイス。管理されなくなった梅林から収穫した梅のシャーベットの5種類を販売しています。

それぞれ特徴を活かした、ちょっと変わったアイスシリーズ。今回はお中元特別価格で販売いたしますので、この機会をお見逃しなく。

内容／【基本セット】1カップ100ml｜計12個
ポポシャーベット3、梅シャーベット3、ポポアイス2、ころ柿アイス2、雨畑茶アイス2個のセット
※内容の変更は可能です。内容の変更をご希望のお客様はご注文時にお申し付けください。
価格／通常4,200円(送料込)、会員4,000円(送料込)
発送／注文順に発送
締切／7月22日(月)まで

会員価格は、早川サポーターズクラブ、及びNPO法人日本上流文化圏研究所の会員に適用されます。

■ご注文・お問い合わせ先■

NPO法人 日本上流文化圏研究所（やまだらけ編集部）
TEL. 0556-45-2160(9:00～17:30)　FAX. 0556-45-2268　E-mail shop@joryuken.net

注文者氏名、住所、電話番号、お送り先氏名、住所、電話番号、商品名、数量をご連絡下さい。ファックス、メールの場合、折り返しご連絡いたします。3日経っても連絡がない場合は、お手数ですが電話でお問合せください。支払いは、商品と一緒に請求書をお送りしますので、指定の金融機関へお振込みください。

送料は、全ての商品の基本料金が、普通便580円で関西、中国、四国、九州、東北、北海道は＋100円～420円かかります。クール便については、さらに190円上乗せになります。

## 6/1-23 間伐材を活用しよう「山守会活動報告展」

早川山守会は、山主様の依頼に応じ山林の間伐を無償で行い、その間伐材を炭焼き、ログハウス資材、木工品等に利用する活動をしています。今回は、過去２年間における活動の中から、「早川集落峰山地区における間伐事業」「炭焼き作業」「自然派ログハウス体験会」などについてご紹介するとともに、「間伐材から作った農業用資材(粉炭)」「チェンソーアート」などを展示・販売いたします。

**期　間**／６月１日(土)～23日(日) 10時～ 17時
※月、火曜日休館(祝日の場合は開場／水曜日代休)

## 8/26-9/1 重要伝統的建造物群保存地区・赤沢宿「町並み選定20周年記念イベント」開催！

石畳と講中宿が建ち並ぶ町並みが魅力の赤沢宿。重伝建選定20周年の節目となる今年、赤沢宿の新たな出発の契機として、記念イベントを開催します。
赤沢宿の新たな魅力を見つけに来て下さい！

**期　間**／８月26日(月)～９月１日(日)
**主な内容**／オープニングイベント(8/26)、民話を語る会(8/28)、シンポジウム、基調講演(9/1)書道展、鹿野貴司写真展、写真コンテスト受賞作品展(以上、期間中随時開催)ほか　※あくまで予定です。

**お問い合わせ先：早川町教育委員会　電話0556-45-2547**

### 「赤沢宿写真コンテスト」作品募集中！

記念イベントの一環として、写真コンテストを開催します。赤沢宿をはじめ、早川町の魅力あふれる作品をお待ちしています！詳細は赤沢宿写真コンテスト事務局(上流研内)電話0556-45-2160まで、お問い合わせ下さい。

**テーマ**：赤沢宿及び早川町内で撮影した写真
**締　切**：７月31日(水)当日消印有効
**賞/賞品**：優秀賞(１点)町の観光ポスター掲載
赤沢賞(１点)武蔵屋そば１年間無料券
早川賞　(１点)　早川サポーターズクラブ物産会員入会
入　選　(10点以内)　雨畑真石の文鎮

受賞作品は、イベント期間中に赤沢宿の建物内で展示します！

## 7/6-21 南アルプスをこの足で登って撮った「山岳パノラマ写真展３」

今回の展覧会では、新作「大菩薩嶺妙見の頭、赤岳、間ノ岳、中白根山、高ボッチ山頂」からの360°パノラマ写真と山頂に向かうまでの道中で撮影した、南アルプスの自然の姿も共にご紹介したいと思います。

シルバークライマー(望月勝信)より

**期　間**／７月６日(土) ～ ７月21日(日) 10時～ 17時
※月、火曜日休館(祝日の場合は開場／水曜日代休)

## 8/3-25 足立 洋史 木版画展「呪の海」

大きなエネルギーを描きたい。そんな思いで制作した5点の連作他小品・手作りの本『想画集』等を展示します。

**期　間**／８月３日(土)～
８月25日(日) 10時～ 17時
※月、火曜日休館(祝日の場合は開場／水曜日代休)

### 「革アクセサリー制作体験」もやります！

**日　程**／毎週土曜、日曜　※但し８/11(日)を除く
**受付時間**／ 10時～ 16時(最終日は14時まで)
**作る物**／ニャンコのバックチャーム or ストラップ
**参加費**／サイズ(大)1,200円、(中)800円

※汚れてもいい服装でお越し下さい(革の染料は洗っても落ちません)。また、作家がギャラリーを空ける事がありますので、参加ご希望の方は事前に下記連絡先にお名前、人数、参加御希望日時をご連絡頂けると助かります。

電話 080-1101-1464　メール hanzou@docomo.ne.jp 足立まで
詳細は、http://www8.plala.or.jp/koubouhanzouをご覧下さい。

問い合わせ先「はやかわ創造空間 COCOROTO」
住所：山梨県南巨摩郡早川町保 1525
電話：0556-45-2770　E-Mail：cocoroto.cs@gmail.com
**展示会の様子**　http://cocoroto.cocolog-nifty.com/blog/

早川町 望月石材店
☎0556-45-2601
身延町 飯富展示場
☎0556-42-4440

新築、改築、マイホームの事なら何でもおまかせ
日本建築のプロフェッショナル
**望月工務店**
〒409-2713 山梨県南巨摩郡早川町保 1792
TEL.0556-45-3016　FAX.0556-45-2661(工場)

## 7/13-8/25 「南アルプスの清流で川遊びプラン」

～通常の宿泊料金で川遊びが体験できる！～

ヘルシー美里のご宿泊と、「ネイチャーガイド特別編・川遊び」がセットになったプランです。南アルプスから流れる美しい清流で、ガイドと一緒に思い切り川遊びを楽しんでみませんか？

岩の上から飛び込んだり、川の生きものを探したり。ライフジャケットをつけるので、泳げないお子様でも安心です。夏休みに家族で楽しい思い出を作りましょう！（日帰り参加も可能です。詳しくはお問合せください。）

**日　時**／7月13日（土）～8月25日（日）
**参加費**／【本館泊（1泊2食付）】
大人：7,000円、小学生：6,300円、小学生未満無料
【コテージ泊（食事なし）】
大人：3,000円～、小学生：1,600円、小学生未満無料
※中学生以上が大人料金です。金額は税込みです。参加費には宿泊代、プログラム費、食費（2食）、障害保険料が含まれます。
**定　員**／子ども（中学生以下）20名まで

## 7/20-21 「夏休みファミリーキャンプ」

～自然の中で親子一緒に楽しみませんか？～

南アルプスの清流での川遊びや、真っ暗な夜の森の探検。薪割り、火おこしからはじめる野外料理など体験がもりだくさん。食事には生態邑の畑でキャンプ中に収穫する新鮮野菜を使います。夏の楽しさがぎゅっとつまった2日間です。

**日　時**／❶ 7月20日（土）～7月21日（日）
❷ 8月17日（土）～8月18日（日）
**対　象**／5歳以上
**参加費**／大人1名＋子ども1名：15,000円
追加：大　人1名 9,000円
子ども1名 7,000円
※子どもは5歳～中学生を指します。金額は税込みです。参加費には宿泊代、プログラム費、食費（3食）、障害保険料が含まれます。
**定　員**／7組まで
※❶は7月12日まで、❷は8月9日までに要申込

いずれのツアーも、宿泊場所は「光源の里温泉ヘルシー美里」です。JR身延線「下部温泉駅」または高速バス「飯富停留所」からの送迎をご希望の方は事前にご相談ください。早川サポーターズクラブ会員は、いずれも1割引にてご参加いただけます！

申込／問い合わせ先　**南アルプス生態邑「野鳥公園」または「ヘルシー美里」**
【野鳥公園】TEL/FAX：0556-48-2288　mail：yacho@hayakawa-eco.com
【ヘルシー美里】TEL：0556-48-2621　FAX：0556-48-2622　mail：info@hayakawa-eco.com

## 「はやかわトラねこ市」開催予告！

3年目に突入した「はやかわトラねこ市」。早川町の観光物産推奨品をはじめ、旬の農産物や工芸品など、早川の物産が並びます。ぜひお越しください。

**【ミニトラねこ市】**
6月9日（日）、7月14日（日）、8月11日（日）
いずれも9時～13時、麓の直売所駐車場にて

**【秋の大トラねこ市】**
10月13日（日）9時～13時
西山自然の農園・湯島の湯グラウンド（予定）

問い合わせ先「早川町観光協会」
早川町保509　☎0556-45-2302

## 国民文化祭やまなし2013特別事業
## 「望月苔雲先生　特別書道展」in 硯匠庵　開催中！

雨畑出身の書道家・望月苔雲先生は御年95歳。雨畑真石硯を使い、今も精力的に作品を書かれています。力強さがありつつ、見る者へ安心感を与える作品、ぜひ見にお出かけ下さい。

**期　間**／現在開催中、11月10日まで開催
**時　間**／午前9時～午後5時
**休館日**／毎週火曜日（祝祭日の場合は翌水曜日）
**硯学料**／大人200円
中・高・大学生100円
小学生以下無料

問い合わせ先「硯匠庵」
住所：山梨県南巨摩郡早川町雨畑701-1
電話：0556-45-2210
URL：http://amehata.suzurinosato.com/

ENEOS
浜田屋商店
電話 0556-48-2311

早川町で感動体験を・・・
南アルプス生態邑
光源の里温泉　ヘルシー美里
南アルプス邑野鳥公園
ご予約・お問い合わせ
TEL/0556−48−2621
http://www.hayakawa-eco.com/hmisato/

霊峰七面山の登山口であなたの旅を支える
株式会社
俵屋観光
バス ジャンボタクシー
有限会社
俵屋旅館
宿泊 宴会 法事などに
〒409-2732
山梨県南巨摩郡早川町高住621
電話 0556-45-2500

生命保険、損害保険のことなら
株式会社　さいとうエージェンシー
tel.055-280-3360　fax.055-280-3361
自動車販売、オートリース、レンタカーのことなら
有限会社　S・T・E・P
tel.055-280-3350
〒400-0422　山梨県南アルプス市荊沢1356-1

NTT東日本　FLET'S 光
販売代理店
オフィス事務機（有）
〒409-3244
山梨県西八代郡市川三郷町岩間2077
TEL.0556-32-1003　FAX.0556-32-1004

南アルプス街道の交通安全と
清流早川の自然を守ることを永遠のテーマに
地域社会の発展に貢献する事を目指します。
早川砂利協同組合
理事長　井上聰一郎
山梨県南巨摩郡早川町小縄26
電話 0556-45-2450

おばあちゃんの試してレシピ24

もっちもちで栄養満点

# モロヘイヤ入りエゴマ団子

高橋時枝さん（草塩）

夏に収穫するモロヘイヤ。高橋時枝さんは、毎年、畑で採れたモロヘイヤを乾燥させ粉にします。旬の時期だけでなく、うまく保存して一年中料理に大活躍。今回、その粉を使ったレシピとして、もちもちの食感に、モロヘイヤの鮮やかな色、エゴマの香り高いお団子を教えていただきました。淹れたての新茶でいただけば、とても贅沢な気分。モロヘイヤの粉とともに、ぜひ作ってみてください！

モロヘイヤは、色、香りだけでなく、体の抵抗力を強め、疲労回復にも良い食材です。こんにゃくやうどんの麺を作る時に混ぜたりもするそうです。

**材料**（5～6人分）

白玉粉……200g
絹豆腐……100g
モロヘイヤ粉…大さじ3
すりエゴマ……100g
砂糖……大さじ2
塩……少量

※モロヘイヤの粉は、葉を天日で乾燥させフードプロセッサーで粉末にして作ります。また、エゴマが手に入らない場合は、ゴマでも代用可です。

## 作り方

❶ 白玉粉、豆腐、モロヘイヤの粉を水（分量外）でこねる。耳たぶより少し固めにする。

❷ 適当な大きさにちぎり、手で丸めて茹でる。茹で時間は、団子が浮き上がってから5分程度が目安。

❸ 茹で上がった団子を冷水にとり、ザルに移し、さらにキッチンペーパーで水気を取る（エゴマをまぶしたときのベタつきを抑えるため）。

❹ 荏ゴマに砂糖と塩を混ぜ、団子にまぶす。団子を3つずつ、竹串に刺しできあがり！

## ■NEXT やまだらけ

60号特集（8月上旬お届け）

### 「早川で子どもを育てる価値」

早川町の学校が熱い！教育委員会では、昨年度から義務教育費を完全無償化し、子育て世帯をサポート。学校や保護者も立ち上がり、山村留学生の受け入れを積極的に推進。成果をあげています。

山村留学で早川に来た家族の暮らしぶり、学校存続に向けて精力的に活動を続ける北っ子応援団の取り組みを通して、早川町で子どもを育てる価値について考えてみたいと思います。

## 読者の声

● 一昨年、白根三山の一座、北岳のピストン（一泊）を初めてしました。三山の縦走に自信がなかったからです。でも、深沢糾さんの山小屋があることが分かり、安心しました。この夏、ぜひ縦走しようと思います。（横浜市Kさん）

● 農鳥の糾さんのお話に感動しました。こういう山小屋のご主人がいらっしゃるなら、山にも登ってみたいと思いました。（長岡京市Oさん）

編集部：この他にも、感動した、農鳥小屋を訪ねてみたい、というお言葉をたくさんいただきました。ありがとうございました。ただし、糾さんは、登山に関しては本当に厳しい方です。山を甘く見ず、しっかりとした装備、無理のない行程で農鳥小屋へ向かってください。また、「やまだらけ」も必ずやお持ち下さい。万が一、糾さんに怒られたとき、やまだらけを見せるときっと笑顔になりますよ！（笑）

## 豪華賞品？が当たる やまだらけクイズ！37

問：身延往還の追分・感井坊に祀られている神様は何？

答：1，梵天
2，帝釈天
3，毘沙門天

正解者の中から抽選で2名様に、千須和主導会のブルベーリーをお贈りします！

前回のクイズの正解は、2の「間ノ岳と西農鳥岳の間」でした。抽選の結果、奥谷三穂さん、河野幸雄さん、岩瀬忠篤さんが当選しました！おめでとうございます！

【本社】〒409-2732　山梨県南巨摩郡早川町高住645-27
TEL.0556-45-3000　FAX.0556-45-2288
【生コンクリートプラント】TEL.0556-45-2700
http://www.soho3000.com/

すいか！
文・石津ちひろ　絵・村上康成
定価1,470円（税込）/27×22cm/32頁
ISBN978-4-338-26111-1
おじいちゃんの畑であまーく育ったすいか。その味は……もちろん、最高！読めばだれでも、思わずすいかが食べたくなっちゃう！
小峰書店　〒162-0066　東京都新宿区市谷台町4-15
TEL 03-3357-3521　FAX 03-3357-1027

鉛筆の名作「ハイユニ」
1ダース ¥1,764
ひらがな、カタカナで名入れできます。

文具の 月禾堂
TEL(0556)22-0445


今回の取材を通して最も感じたこと、それは身延山エリアには信仰と観光が互いに共存する関係があるということです。多くの観光客が訪れても、身延山や七面山が霊域であることには変わりがなく、霊域だからといって観光客を拒む事もない懐の深さが、この身延山エリアの一番の魅力なのではないかと考えました。機会がありましたら、是非一度訪れてみて下さい。


山を視ければ宝の山 やまだらけ

発行元／フィールドミュージアム運営委員会
NPO法人日本上流文化圏研究所内
住　所／山梨県南巨摩郡早川町薬袋430　〒409-2727
電　話／0556-45-2160　ファクシミリ／0556-45-2268